

国土交通省総合政策局
情報政策課交通経済統計調査室
平成27年2月4日(水)公表

トラック輸送情報

平成26年11月分

平成26年12月分は平成27年3月上旬公表予定

*問い合わせ先

国土交通省総合政策局情報政策課交通経済統計調査室

電話 03-5253-8111 F A X 03-5253-1567

担当 西永、桑原 内線 28-723

この調査報告の概要は、国土交通省ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

トラック輸送情報（平成26年11月分）

平成27年2月4日
総合政策局 情報政策課 交通経済統計調査室
担当：西永、桑原 内線28723
直通：03-5253-8346
<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、5,248,881トンで、前月と比べ総輸送量が約375千トン減少したため、前月比93.3%（季節調整済み96.9%）となり、前年同月との比較では、約461千トン減少したため、前年同月比91.9%の実績であった。

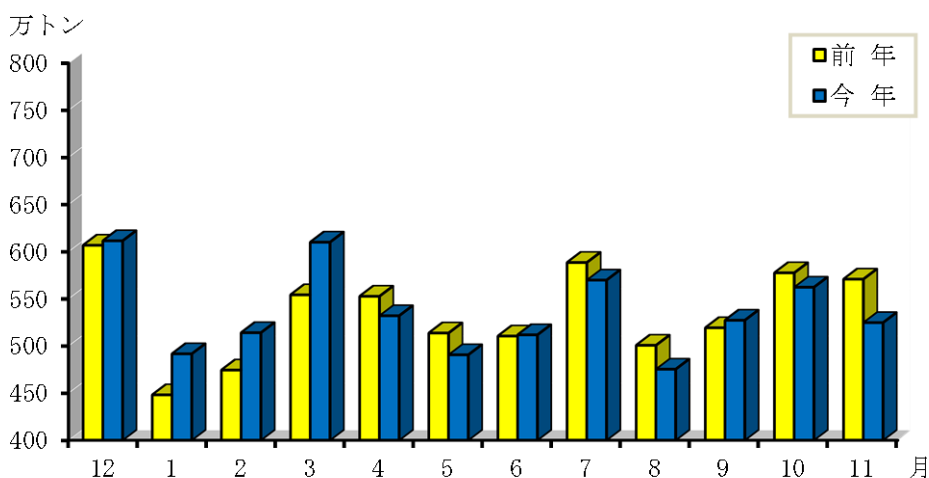
なお、平均稼働日数は22.4日で、前月と比べ2.6日減少し、前年同月との比較では、1.1日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、234,325トンで、前月と比べ約9千トン増加したため、前月比104.2%となり、前年同月との比較では、約9千トン減少したため、前年同月比96.4%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

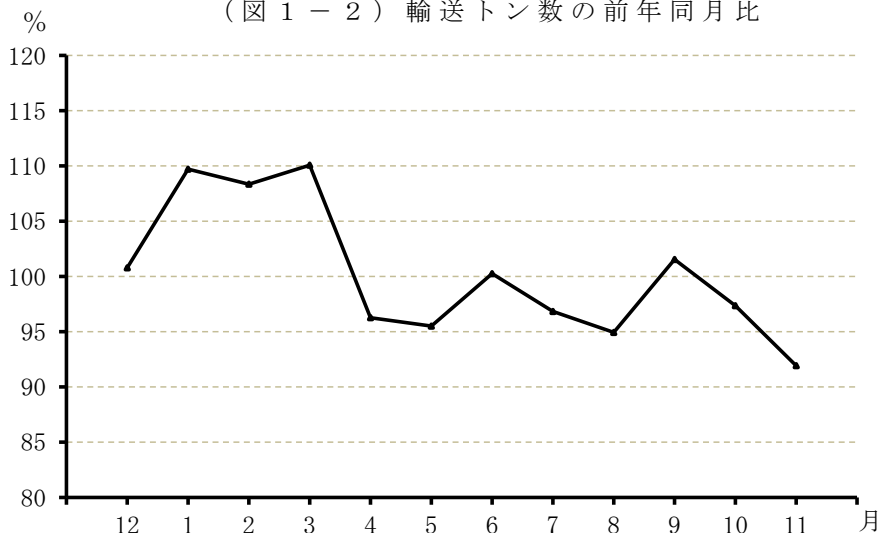
注）平成25年2月から貨物輸送の調査対象については、24社となった。

前月比及び前年同月比は、24社ベースで比較している（図1-1及び図1-2は24社ベースで作成）。

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比

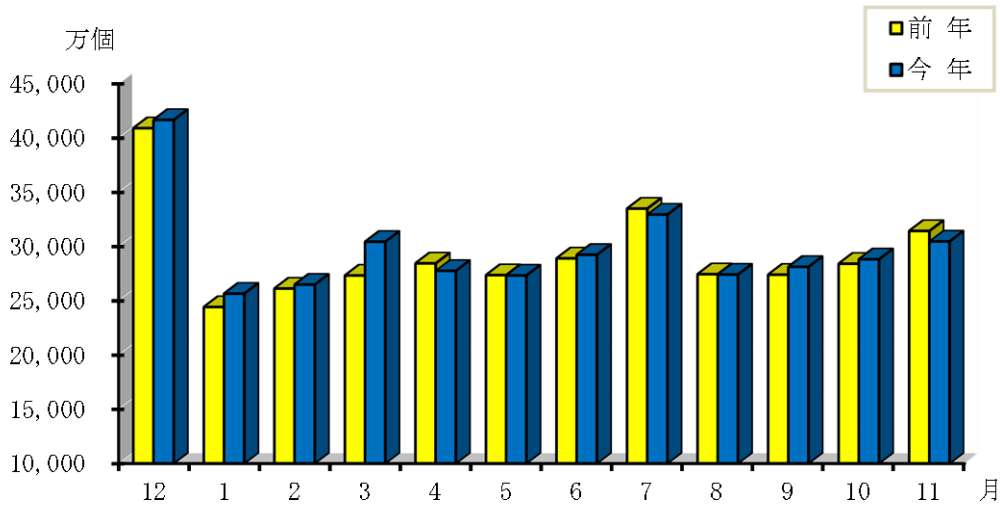


(2) 宅配便の概況

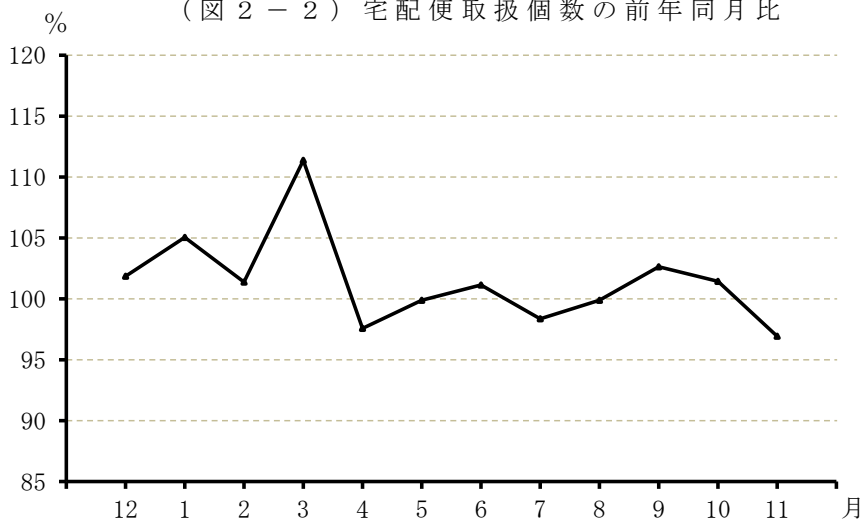
調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、約 304,774 千個で、前月と比べ 約 16,467 千個増加したため、前月比 105.7% (季節調整済み 99.0%) となり、前年同月との比較では、約 9,644 千個減少したため、前年同月比 96.9% の実績であった。

(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

調査対象 25 社 (24 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社) は、前月と比べると、「その他」を除いた全ての品目において、輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。その減少要因としては、工場・生産地からの貨物減であった。また、倉庫から出る貨物減が「機械」、「化学工業品」で、季節的需要減が「機械」、「化学工業品」及び「日用品」で見られた。主な減少地域は、関東地方から中国の範囲であった。

前年同月と比べると、全ての品目で輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。その減少要因としては、工場・生産地からの貨物減であった。また、倉庫から出る貨物減が「機械」、「化学工業品」で見られた。主な減少地域は、関東地方から中国の範囲であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因	
	著 増	増	変 ら ず	減	著 減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	1	11	3	2			
	金属製品		1	13	7		関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4	
	機 械	1	1	11	7		大阪、近畿	4, 7, 8	
	化学工業品		1	10	10	1	合成樹脂、その他の化学工業品	関東地方、北陸信越、近畿地方	4, 7, 8
	繊維工業品		1	15	6		関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4	
	食料工業品		1	13	6		愛知、近畿	4	
	日 用 品		1	11	10		神奈川、関東、愛知	4, 8	
	そ の 他	1	3	12	4	1			
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	1	12	3	1			
	金属製品		1	11	9		東京、関東、北陸信越、中部地方、大阪、近畿、中国	4	
	機 械		1	9	9	1	機械部品	関東、大阪、近畿	4, 7
	化学工業品			13	9		関東地方、大阪	4, 7	
	繊維工業品			13	7	1	神奈川、関東、愛知、近畿地方、中国	4	
	食料工業品			11	8		その他の食料工業品	愛知、近畿	4
	日 用 品			10	10	1	関東地方、北陸信越、愛知、大阪、近畿	4	
	そ の 他	2	1	9	7	1			

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者 801 社/調査対象事業者数 1,038 社)の輸送量は、前月比 95.3%、前年同月比 97.2%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	97.2 %	97.2 %	100.6 %	97.0 %	93.4 %	95.2 %	95.0 %	92.9 %	104.3 %	96.8 %	102.1 %	
前 月 比	95.3 %	96.9 %	94.9 %	102.8 %	94.6 %	92.2 %	91.5 %	94.4 %	97.0 %	95.2 %	92.2 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況 (各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比 96.9%、対前年同月比 97.2%であった。品目別では、季節的需要増により「その他の農産品」、「その他の石油製品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、「工業用非金属鉱物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」が、季節的需要減により「水産品」が、倉庫への入出庫減により「紙・パルプ」が、また、「野菜・果物」、「石炭」及び「セメント」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比 94.9%、対前年同月比 100.6%であった。品目別では、景気の影響による貨物増により「金属製品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減で「穀物」が、また、「木材」、「砂利・砂・石材」、「機械」、「繊維工業品」及び「廃棄物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月、以降とも減少傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比 102.8%、対前年同月比 97%であった。品目別では、「その他の製造工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「鉄鋼」、「セメント」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比 94.6%、対前年同月比 93.4%であった。品目別では、季節的需要増により「その他の石油製品」、「化学肥料」及び「その他の製造工業品」が、建設関連の需要増により「金属鉱」、「鉄鋼」及び「セメント」が、また、「日用品」が増加したと回答する事業者があった。一方、「金属製品」、「その他の化学工業品」及び「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比 92.2%、対前年同月比 95.2%であった。品目別では、「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比 91.5%、対前年同月比 95.0%であった。品目別では、年末工事の増加により「金属製品」、「機械」が、また、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、冬季に向けて飲料等の出荷が減ったことにより「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比 94.4%、対前年同月比 92.9%であった。品目別では輸出入の貨物増により「金属製品」が、天候の影響及び季節的需要増により「その他の石油製品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「鉄鋼」、「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比 97.0%、対前年同月比 104.3%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」、「その他の石油製品」が、建設関連の需要増により「鉄鋼」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「日用品」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降は減少傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比 95.2%、対前年同月比 96.8%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「その他の窯業品」が、季節的需要増により「その他の農産品」が、また、「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「野菜・果物」、「動植物性飼・肥料」が、工場・生産地からの貨物減により「紙・パルプ」、「動植物性飼・肥料」が、また、「金属製品」、「その他の製造工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降は減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比 92.2%、対前年同月比 102.1%であった。品目別では、商社・問屋からの貨物増により「木材」、「紙・パルプ」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、商社・問屋からの貨物減により、「金属製品」、「金属くず」が、その他の品目のコンテナ輸送等で、米軍基地向けの輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

(3) 品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		海	道	北	東	陸	信	部	畿	国	国	州	縄	計
1. 穀物	増			1			1			1		1		4
	減	1	6				1							8
2. 野菜・果物	増	1	2							1	7	3		14
	減	4	3							1	2	6		16
3. その他の農産品	増	7										2	1	10
	減													
4. 畜産品	増											1		1
	減		1									1		2
5. 水産品	増		1		1						1			3
	減	3	1		1					1				6
6. 木材	増	2								2		1	1	6
	減	2	2		1					1	1	2		9
7. 薪炭	増													
	減													
8. 石炭	増													
	減	2												2
9. 金属鉱物	増					2						1		3
	減													
10. 砂利・砂・石材	増	4					1			1	2	2		10
	減	7	2	1							1	3		14
11. 工業用非金属鉱物	増	3			1					1	2			7
	減		1								1			2
12. 鉄鋼	増		2		2						3	1	2	10
	減		1	1						2	1	1		6
13. 非鉄金属	増				1			1						2
	減													
14. 金属製品	増		2				1	2	2					7
	減					3		1				2	1	7
15. 機械	増	1			3			2	1	3	3			13
	減		2	1	2	3			3	2				13
16. セメント	増	1			2					1	1	2	1	8
	減	3	1	1						1		1		7
17. その他の窯業品	増		1								1	2		4
	減							1	1					2

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
品目	増		1		1			1				3
	減											
18.揮 発 油	増											
	減											
19.その他の石油製品	増	5	1		3			4	2	1		16
	減	1	1		1			1				4
20.コークス・ その他の石炭製品	増											
	減	1								1		2
21.化 学 薬 品	増											
	減		1					1	1			3
22.化 学 肥 料	増				2				1	1		4
	減		1									1
23.その他の化学工業品	増		1									1
	減				2	1		1				4
24.紙 ・ パ ル プ	増								2	1	1	4
	減	2	1			1	2	1	3	3		13
25.織 維 工 業 品	増											
	減		2					1	1			4
26.食 料 工 業 品	増		2				1			1		4
	減	1	3		2	1	3			2		12
27.日 用 品	増		2		4		3	2		2	1	14
	減	1	1				1	1	2	3	2	11
28.その他の製造工業品	増		1	2	2							5
	減		1			1				2		4
29.金 属 く ず	増											
	減										1	1
30.その他のくずもの	増											
	減								1			1
31.動植物性飼・肥料	増								1	1		2
	減	1							3	4		8
32.廃 棄 物	増		1						1	1		3
	減		3		1			1	2	2	1	10
33.輸 送 用 容 器	増									1		1
	減											
34.取 り 合 せ 品	増									1		1
	減									1		1
35.そ の 他	増		2	1	2		2	3		2		12
	減		4	2	2	1	4	1	1	4	3	22